

会議開催記録

会議名	第2回 菊川市総合計画審議会
日 時	平成27年5月1日（金） 19:00～21:00
場 所	菊川市 2階 庁議室
出席者	審議会委員12名 事務局7名
議 事	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 各種意識調査結果報告 (2) 基礎調査報告 (3) 人口ビジョンの考え方 4 閉会
議事要旨	1 開会 ・15名委員のうち12名の出席により会議成立の確認 ・配布資料1～3の確認 ・企画財政部長あいさつ みなさん、こんばんは。市長、副市長が出席できませんでしたので、私からご挨拶をさせていただきます。本日はGWの最中で、良い日程調整ではありませんが、ご出席をいただきありがとうございます。総合計画審議会では、菊川市の第2次総合計画、地方創生に関わる地方版総合戦略のご審議をお願いすることになります。菊川市が合併し、総合計画で10年間のまちづくりを進めてきました。次の10年の方向性を決める時期が来た中で、第3次行財政大綱、公共施設等総合管理計画、今年度および、来年度で策定します。この2年間は、菊川市にとって重要な時期になります。気を引き締めて取り組んでいきたいと考えています。先日、静岡県の方総合戦略に関する、会議に参加しました。会議では、子育て支援、労働環境、学生の幅広い階層から意見を聞かせていただきました。就職を控えた学生から切実な要望や、子供達にふるさとの良い所をアピールし、住みつけたい故郷にすることが重要であるなど、貴重な意見が聞けました。市民の意見を聞くことが、重要だと改めて思いました。総合計画と総合戦略は方向性を決める重要な計画であり実効性のある計画にしていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。 2 会長あいさつ 会長： みなさんこんばんは。今、部長さんから、菊川市の中でこの2年間でターニングポイントになると話がありました。初夏みたいな天気です。新茶までいただき、やる気が出てきました。皆さまと一緒に、菊川市の将来を議論して行きたいと思っております。いただいた資料が厚いため、読みこなしながら議論を重ねていきたいと思っております。本日は人口ビジョンが中心になりますのでよろしくお願いいたします。 3 議事

(1) 各種意識調査結果報告、(2) 基礎調査報告

(資料1-1、1-2、事務局説明)

(資料2、事務局説明)

(質疑)

会長： 厚い資料をコンパクトにまとめていただきました。市民の意識調査を行い、地域の現状分析、環境変化の分析、SWOT分析で、示していただきましたが、今回の審議会だけでは足りないと感じています。皆さまからご意見をいただき、フィードバックし、次回も含めて議論を重ねていきたいです。これを踏まえ、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

委員： 大学生の調査結果は、菊川市に住んでいる大学生を対象としたものですか。

事務局： 菊川市にゆかりのある大学生を対象としました。職員や、職員の知人に協力をいただき、首都圏や県外に行っている大学生も含めて調査を行いました。資料1-1 意識調査結果報告書のP77に回答者の属性を掲載しています。

委員： 意識調査の結果、相反する結果が出ています。菊川市にはストロングポイントとウィークポイントが共存していると感じます。昔の中東遠地域は、産業の1次、2次、3次が均衡していました。しかし、今は1次が衰退していると感じています。この地域の特性として、いろいろな要素がある地域を期待しているのではないかと。そういうことが、最終的には施策へのキーワードになってくると思います。

SWOT分析は、もう少ししっかりと分析した方がよいと思います。全体として、言葉が抽象的で分からない部分があります。プラス要因とマイナス要因についても抽象的で分からない部分があります。例えば、マイナス要因という項目の中に、地域経済を取り巻く環境の変化とありますが、これがなぜ、マイナス要因なのか。プラスにもとれると思います。人によっては、少子高齢化、人口減少がマイナスに思う方と、プラスに思う方がいると思いますので、細かく、分析した方が整理されると思います。

委員： 市の経営を考えると、菊川市の財政力は県下23あるうちの、21位であると思います。市債もあります。これからどういう返済計画なのかが、気になります。財政が弱いことは致命的で、何もできなくなるため先行きを共有しなくてはならないと思います。財政が回復しない見込みであると、取捨選択をしないといけないと思います。

事務局： 財政問題は、ご指摘の通りであります。財政力指数は、財政力の強弱を表す指数です。それが0.74で、県下の市では悪い方から3番目になりますが、静岡県は全国から見ると良い方であり、全国的に見ると、平均は、0.5くらいです。0.74だと、上から2割くらいの位置になります。全国的に見ると、そんなに悪い方ではありませんが、しかし市債残高は、180億円あります。合併を機に、20億円ほど減らし、健全化を進

めているところでございます。

健全化を進めると、自由に使えるお金は少なくなり、相反するものがあります。向こう10年間の総合計画をつくるにあたって、それに見合ったスパンでの財政計画も作る予定です。5年間を見た、中期計画は作っていますが、10年間の長期計画は作っていないため、この総合計画に合わせて、作って示すことを考えています。中期の計画は、HPに掲載しているので、ご覧いただければと思います。

会長： 財政の指標推移を見ると、ある程度抑えていく必要はあるかと思います。上げ潮派で行くのか、儉約派で行くのか。2つの方向性がありますが、皆さま方の考え次第になると思います。重要な指摘だと思います。

委員： アンケート調査の結果は、想定内の結果でした。回答者の属性のバイアスがあり、差し引いて考えていかないと、正確な分析にならないと思う。

SWOT分析は、企業で使う場合は、利益をあげることにに対して使いますが、行政で使う場合、目的は何かをはっきりしないと分からなくなってしまう。

今後は、全国どこの市町村も、お金儲けができる市町村は、ほとんどないと思います。今後10年を考えたとき、限られたパイの中での配分の問題しかないと思います。財政力指数が高いのは、自動車産業がある三河地域と原発のある地域だけであり、それを前提として、やっていくしかないと思います。

事務局： SWOT分析は、どこを目指すのかという問いがありましたが、このあと、人口ビジョンについて話をさせていただきます。どういう人口推移をたどっていくか、皆様にご審議いただきたいと思います。それに対して、どこを目指していくのか。分析により、どのような施策を打っていくのか。そこにSWOT分析を使っていく考えでいます。

一番の問題は人口の構成の問題であり、3万人、4万人を維持しても、生産年齢人口、子どもが増えて欲しいという狙いが出てくると思います。高齢者を支える年代を増やす施策を、重点的に考えていきたいと考えています。選択する施策が出てくることはやむをえないと思いますので、切るのではなく、支出を抑える施策を考えていきたいです。

会長： アンケート調査の回答は、菊川の魅力は何かという質問に対し、関連的な選択肢を並べ、○をつけてもらったのでしょうか。

事務局： 自由意見で回答を得たものを、区分したものであります。

会長： 菊川の魅力は、すべて「自然」と「茶」であり、現実的な生活が抜けているように感じます。どこにフォーカスを当てるかで、強みは変わってきます。このアンケート結果だけで、クローズアップして施策をすると、現実にはうまくいかないと考えられます。

事務局： SWOT分析については、市民意見から拾っています。これだけではありませんが、

人それぞれの視点があり、いろいろな強みや弱みがあります。皆さまからも、教えていただきたいと思いますし、もう少し分析を掘り下げていきたいと思います。

会長： 定性的な分析が中心となっているので、菊川市の経済構造を押さえて欲しい。産業連関表をつくるのが良いが、それが無理なら、菊川市で比較的優位になっている産業は何か。地域の中で、所得が循環しているのか。稼いでいる産業、所得が出てしまっている産業は何かを定量的な分析をして欲しいです。そこを押えなければ、菊川市の経済基盤の強み、弱みが把握できないと思います。人口減少社会において、一番重要なのは、経済基盤であり、菊川市は、どういうタイプの都市かと考えた時、農業都市、ものづくり都市、商業都市、観光都市といった、明確な特色を出しにくいとは思いますが、そこまでの分析をして欲しい。

(3) 人口ビジョンの考え方

(資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5、参考資料、事務局説明)

(質疑)

事務局： 非常に分かりにくく、数字の細かい世界であります。焦点は2つあります。1つは、これから菊川市の人口がどうなっていくのか。もう1つは、合計特殊出生率を何%に目標にするのか。そうすると、推計がどのくらい上がった数字になるのか。今日は、この2点を押させていきたいと考えています。そのために、資料3-2で将来どうなるのか予測の話をします。

住民基本台帳の動きを追っていくと、三種類の色になります。社人研の推移が、今後の菊川市がたどる推移ではないかと思われます。どの推移をとるのか、議論をお願いしたいです。青色は、日本創生会議であり、俗に言う、消滅可能性都市など言われているのはこの推移であります。事務局としては、社人研の推移を使いたいと考えています。

委員： 社人研の推計は、2010年は推計値ですか。確定値ですか。また、国勢調査人口と住民基本台帳人口の差はどの程度ですか。

事務局： 2010年は確定値です。今年は、国勢調査の年でありまして、年明け、2月頃に、速報値が出ます。確定値は、その後に出ます。H22の時の速報値と、確定値の違いは、10人以下だったと思います。速報値を、年明けまで待つてしまうと、遅くなってしまうので、先にこちらで、決めたいと考えています。

今年の国勢調査では、46,000人は切らないと予測しています。国勢調査の人口については、期間がH17年からH22の5年間であります。H17、H18年は、菊川市は、人口が伸びていましたが、H19年から人口が減ってきています。

住民基本台帳については、期間がH22年3月31日から、H27年3月31日までです。H21年度からH26年度までの新しい数字であり、人口が増えている時期を含んでいません。その辺りが違いとして出てきていると思います。

委員： 国勢調査は、住民登録している、していないに関わらず、そこに実際住んでいる人達の調査でよろしいでしょうか。

事務局： そうです。

会長： 資料３－２ 黄色のグラフの２０６０年に３１，３８６人になるのは、H23～H27 の４年間のトレンドを、２０６０年まで引き継いだものですか。他のものは無視しているのでしょうか。死亡も出生も同じですか。

事務局： そうです。この推計において、合計特殊出生率が１．６６で、現在のまま、ずっと行きます。死亡は、社人研で使っている、生残率を反映しています。死亡については、グラフ中の黒い線と同じ考え方になります。

委員： 社人研を参考にする方が良いと思います。菊川市の特殊事情として、外国人数がありますが、移民受入を積極的にするのか、しないのかもあると思います。

委員： 外国人を抜いた推計は出来ないのでしょうか。

事務局： 外国人数を抜いた推計はしていません。この表（現在の住民基本台帳に基づく人口）の下、ここ３年間、外国人は２，５００人程度で落ち着いています。これを抜くと、日本人の数は横ばいになります。しかし、それでは、甘いと考えています。

委員： 甘い考えるのは何故ですか。日本人が５年間で減っていないのは、どう評価しますか。甘いというのは、もっと減るだろうと予想しているが、予想外に減っていない、その想定では「まずい」ということですか。

事務局： 人口の移動については、出生、死亡に関わる自然動態と、転入転出に関わる社会動態があります。

社会動態はH26年度に、転出と転入がほぼ均衡です。ここ３年くらいは、転出よりも、転入の方が上回っている傾向でありました。H26年にそれが収まってきて、移動される方は、移動しきったものと見ています。社会移動は、これ以上増えていく見込みはないと考えています。

自然動態は、人口ピラミッドの資料があります。１０代以下が２００人程度である。ここが、育って行き、産む世代になっていきます。ここの総数は確定しています。自然動態は、増えるというのは、考えにくいです。団塊の世代が亡くなって行く方が、多いと考えられます。

委員： 静岡県の人口ビジョンは、２０２０年までに出生率を２．０、２０４０年に社会移動が

ない封鎖人口が340万人弱であります。現状と比較して、8%減に抑えたい考えであります。社人研では300万人まで減るという推測です。それほどマイナスではなく、菊川市は1割以上の減少で、現実を直視している結果だと考えています。

施策を立て、社会移動を減らし、子育て支援の施策内容にもよるが、掛川市では減らないという方向を出しています。市長判断もあります。

菊川市では外国人をどう位置づけるかだと思います。外国人の占める割合は、県下で一番です。リーマンショック後に、「ものづくり」の現場に外国人を受け入れる産業がなかったことで、静岡県から出て行ってしまいました。菊川市では、どういう方向にしていくのかが大きな課題であると思います。

それから、通学者を見ると流出より流入が上回っています。中学生、高校生に菊川市の良さをPRしていくことが重要だと思います。先ほどのアンケートでも、中学生、高校生で「わからない」という人が50%前後います。

また、JRを使って通勤している人が増えているのでその辺りを分析した方がよいと思います。

人口推計については、先入観によって恣意的に設定するのは良くないと思いますので、専門家に確認した方がよいと思います。

委員： 資料1、2について、中高生の意見から、「就業促進」という文言がみられません。その他でも、そのような文言が入っています。生活基盤となる、就業に関する認識がなくここに活路があると思います。

静岡の35の市町の教育長さんとお話をすることを試みました。「学力向上」は、35市町すべてで言われています。ICTの活用、タブレットの配布、塾との提携、このようなことで、各市町が躍起になっています。しかし、学力が上がれば上がるほど都市への集中が進みます。結果、20年後に「学力向上」は達成しましたが、振り返いてみると、子供達は目の前にいない。というような結果になりかねません。□□市では、県下ワースト10のうち7つが含まれています。都市部と同じような学力向上施策を打っているが、果たしてそれでいいのか。学力向上施策と同時に、別の施策を打たなければならないと思います。

そこで、5年前から言っているのは、「ふるさと志向力」であります。個人の居住、移転、職業選択の自由を尊重するのは前提ですが、自分の住んでいる地域に愛着を持ち、地域の中で自己実現を目指す能力と定義しています。5月14日に、中学生を対象に、ふるさと志向力実践編を行います。この資料1、2を読んで、企業については、この取り組みに賛同してもらっています。中高生に具体的な施策を打っていきたいと思っています。

会長： 今日は、政策論まで入れませんでした。将来人口については社人研の推計値を基本として検討するということでよろしいでしょうか。本日は仮置きとさせていただき、次回は、政策論も議論したいと思います。

事務連絡

○今後の検討の進め方について確認

- ・本日出た意見を、策定委員会の部長クラスに報告させていただきます。また議会の中で、同じことを説明させてもらい、事務局案を提示させていただきます。そして、最終的にまとめで行きたいと思います。
- ・次回の会議は、6月中旬を予定しています。

○ホームページへの掲載事項について確認

- ・総合計画策定の進捗状況をHPにアップしていきます。(名簿の掲載について確認、発言名は非掲載とします。)

4 閉会

副会長： 2回続けて夜間の開催、熱心に討議いただき感謝いたします。人口ビジョンについて、裏づけがあるようなないような話になりましたが、人口を維持する施策を打っていけるかどうか、大きな問題になっていきます。国の施策として、子どもを増やす、育てる環境を作りなさいという掛け声が出ています。しかし、やっていることは一時金など、形式的な対応のみです。本来は、若者が子どもを育てられる経済的な形をしっかりとつくることだと思います。価値観の違いで、パートや派遣労働で経済力が弱くても、自分が生きていければよい社会となっていて、昔のように、ひとりひとりが家庭を持って、子どもを育てられるようになるには、経済的な裏づけが必要です。そうでないと自己実現が、できないと思います。

菊川市としても、単なる数字合わせではなく、背景を持って審議会を進めていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

以上